

平成24年3月22日（木）19:00～20:30 三重県伊賀庁舎

- 1 あいさつ(石田会長)
- 2 報告事項 第4回協議会の概要
- 3 協議事項

(1)「協議のまとめ」の最終確認について

会長 「協議のまとめ」の中の「平成27年度を目途に」の部分に意見が集中しているが、この点について私や事務局の見解を説明し、ご理解をいただきたい。第4回の協議会では、名張桔梗丘高校と名張西高校を統合して、今までにない特色の高校づくりをすることで大体意見が一致した。そのような高校づくりを一刻も早く議論をしようということも、合意事項だったと思う。場所については、伊賀市の生徒にとっても通学しやすい高校でなければならないという議論をした。これらのことが実現するのであれば、時期については特定するものではないという言い方をしたと思う。私としては事務局と議論して、平成27年度をとばして望ましい学校づくりを議論するのは、非現実的であるという観点から、「平成27年度を目途に」と時期を明示することを承認した。時期を具体的に入れることで、議論をもう一步進める意味があり、むしろ時期を入れない方が無責任な議論になる可能性があると考え、本日はこの点について、皆さん方の意見はいただいているが、ご承認いただきたいというのが趣旨である。

藤岡委員 時期の明記は必要かと思うが、伊賀にとって必要な学校を作るために、2校を統合するなら、しかるべき時間が必要だと思う。やはり地域の声、保護者の声を聴く期間が必要で、2年くらいの延長がないと現場は混乱すると思う。

事務局 これまで各地域で統合を進める中で、中学校1年生にその姿がわかるようにということで進めてきている。確かに時間的にはタイトなスケジュールかも知れないが、今回の協議会の中だけで進めようとは当然思っていない。今後いろいろところで説明し、ご意見を聴きながら、進めようとしている。平成24年度内には、具体的な学校の姿がイメージできるような議論を地域でやっていきたいと思う。

林委員 これまで3校を残すために各校の特色化の議論を進めてきたが、それにもかなり年月がかかった。保護者や子ども、地域の意見を反映させて、来年度1年間で新しい学校をつくることができるのか、あまりにも早急であり、不安に思う。確かに学級数が減るタイミングとしてはわかるが、名張で本当に望まれている学校は何かを十分に議論する時期が大事だと思う。これだけ意見があって原案が修正されないのは納得できない。

中谷委員 順序としては地域の方にしっかりと説明して、そのうえで時期もご検討いただければと思う。この会議に出席して、意見を聞き、やはり子どもたちにはある程度の規模の学校が必要で、活性化を図るためには統合も一つの方法だと思っている。それにはしっかりとした学校像をつくり、地域の方や保護者が理解したうえで、進めていかないと、ただ統合して一つの学校にただけということになりかねないと思う。

山森委員 P T A連合会は基本的に賛成とか反対ではなく、子どもに対して不利なことが起きた場合には、徹底的に意見を言うという立場である。P T A全員に声をかけるので、この件に関して説明し、意見や要望を聴いていただく時間をとってほしい。平成27年度について、保護者や地域の理解が得られずに予定が延びることもあるのか。

事務局 これまでの議論で、平成27年度に少子化が進み、2校が3～4学級の小規模になると、生徒に不利な状況になることを資料をもとに検証してきた。県としてはそれを放っておいて子どもたちに不利益な状況が生じるのを当然見過ごすことができない。そういう意味で、平成27年度がもっとも合理的な時期と判断し、これまで説明してきた。

時期が延びるかについては、即断はできないが、避けるべきである。数合わせの議論ではなく、平成27年度にむけて、皆様のご理解とお知恵を拝借したい。

池原委員 本年度入試の名張3校への志願者数を見ると、本当に深刻な状況になっていると思う。数字は高校にとって非常に大きい。加えて、近大高専が生徒を「青田買い」しており、まともな競争になっていない。その中で、今回の新聞記事は決定的であり、保護者はどちらの学校がなくなるのか浮き足立っている。このままだと、両校とも魅力化どころか、定数を確保するだけで精一杯である。延々と悠長に議論するのではなく、統合することをはっきりさせたうえで、どんな魅力化をするのか、県教育委員会からたたき台を出してもらい、今年度中に諮るという効率の良い議論をしていかなければ、この2校は持ちこたえられない。

味岡委員 放っておけば平成27年度に1学年が3～4学級の学校になる。子どもたちが活性化した教育を受けるためには、普通科では1学年7学級が最低ラインだと思う。それがなければ、例えば高校に行っても、部活動が活発化していない、教員も少ない、互いに切磋琢磨するチャンスがない中で、子どもが不幸だと思う。時期の問題では、平成27年度には絶対統合すべきであろう。伊賀白鳳高校を作ったときには、統合しようとしてから3年くらいであった。それくらいのスパンで、説明は各地区で十分にしたと思う。あと平成24～26年があるので、特に平成24年度にしっかりと保護者に説明していけば、理解が得られる。

会長 子どもたちの不利益になることがあってはならないということに尽きると思う。逆にこれを放置しておくということは県の怠慢になる。そのことを前提にするならば、時間が短ければ短い中で、周知徹底をはかり、ある程度県がリードして、ビジョンづくりから議論を来年度早々にスタートさせるべきであろうと思う。言葉としては「平成27年度を目途に」ということであるが、その奥を理解すれば、開設者としての責任、これを放置しておくことは「不作為」という問題が含まれていると思う。その部分を第一に考えれば、時間が足りないということは言い訳になると私も理解した。

上島委員 平成17年度の伊賀の協議のまとめでは、平成27年度から平成33年度までに4校にするという案があった。このことを踏まえると、今の学校数でいくことは当然無理だと思う。その時に平成27年度ではなく、幅を持たせてあるのは、平成27年度は確かに大きく減少するが、その翌年にはまた増える状況がある。平成27年度に統合するのではなく、様子を見て、ずらしていく方が理解を得やすい。すぐに1校にしてしまうと、無理が出てくると予想される。近大高専については、昨年地元から入学者が増えたが、今年はそれほど増えていないと中学校長から話を聞いている。

池原委員 平成27年度から何年か待てば、名張桔梗丘高校も名張西高校も3～4学級で、例えば、野球したい生徒は甲子園に行けない。生徒が集まらない部活動は衰退するし、規模が小さくなって部活動が置けなくなった学校を現に見てきた。また、活気がなくなって、学校全体も問題を抱えてきたということを見ている。子どもが充実した高校生活を送ることが大事だということであれば、時期を延ばすという意見には反対である。

味岡委員 同意見である。平成27年度に統合し、平成28年度は多少増えても、募集定数で調整できると思う。平成27年度は一つの節目であり、一番論理的に説明できる年度である。

山口副教育長 平成18年9月に4校案をまとめた時に、名張でも公聴会をして、いろいろな意見があったが、子どもたちのためにとということで、話がまとまったと考えている。また、平成21年、22年にPTAの方を中心に「地域の教育を考える会」で、高校教育のあり方について講演やパネルディスカッションなど、教育に対する理解を深めながらやってきていただいたので、私は唐突感はないと思っている。統合は平成27年度にこだわらなくていいという意見があったが、年を区切ってやるのが、中学校に通い始

めた子どもたちに対する信頼や望ましい学習環境を与えることだと考えている。先延ばしにして、いい意見やいい知恵が出るということはない。地元で早く魅力ある学校を作るべきではないかという思いをぜひこの場でお願いしたい。

林委員 子どもにとって不利益な状況を作ってはいけないという話があった。3学級、4学級の学校では、子どもたちが不利益を被ることになると思う。ただ、この1年で議論されて、今後子どもたちに不利益な状況が生じないのか、それを一番心配している。

上島委員 これまで2校の活性化の話し合いがされたが、変わらなかった。名張桔梗丘高校や名張西高校ができた時は、中学校の進路指導は夜遅くに家庭訪問もして、生徒が地元の学校に行くよう取り組んだが、残念ながらその期待に応えてもらえなかった。そのつけが今まわっていると思う。厳しい状況になるのが見えているので、送り出す方も考えなければならないし、一方受ける側もきちんと納得できるものを示すことが大事だと思う。今後そのことについては、いたずらに延ばすことはよくないが、ある一定の期間を持って、きちんと方向性を明示してやっていかなければならないと思う。

山口副教育長 名張桔梗丘高校や名張西高校を作った時、中学校でも随分無理をして、生徒にそれらの学校に行き行って頑張るように説得していただいた。今の中学校の先生方はそのようなことをやっていたかどうかがどうか。やっていたかどうかと信じているが、実際に津地域や大阪方面や私立高校に流れている人数は減っていない。学校も努力してこなかったのかも知れないし、県教委も十分な支援をしてこなかったかも知れない。そういう中で、受け手と送り手が仲良くなって、魅力ある学校をどう作ろうかということをして是非保護者も入れてやっていただきたい。私はもうそういう時期に来ていると思う。

味岡委員 伊賀地域の高校として活性化していくことを考えると、平成27年度の統合しかあり得ない。期間を区切らなければ、いつまで経っても議論は深まらない。何年という期間をきれば、それに向けてみんなの目的意識ができてくる。伊賀の高校として生き残って、活性化していくためには、期限をきって進めることが絶対に必要だと思う。

会長 会長としてまとめたい。このように皆さんの意見を頂戴してきたが、最終的に、どういう高校づくりをするかの責任は開設者としての県教育委員会にある。逆にこの状況を放置することの責任追及も起こる。皆さんのご意見も頂戴し、十分くみ取ったうえで、開設者としてはこの案でやっていきたい、やるんだという意味表明だと私は思っている。県立高校に対して、県は責任がある。その前提でこの地域を考えていこう、時間はないのでやらせていただきたいということである。

中谷委員 県教委の思いがあるならば、新しい学校のビジョンのようなものを地域や保護者に早急に伝えてほしい。そのうえで、議論をさせていただきたい。

山口副教育長 会長から設置者である県教委の責任であるという話があったが、県教育委員会がこのように進めていくということで、トップダウンでするつもりは毛頭ない。本県では、地域住民や保護者、学校現場の先生方の意見を聴きながら、どういう学校づくりをしていくかということをやっている。日が迫っているからやらないということではなく、精力的にやっていかなければならないことである。「平成27年度を目途に」となっているが、早い段階で、現在の状況も広く説明しながら、新しい魅力ある学校づくりに県教育委員会も頑張りたいと思っている。

会長 統合後の学校像をどう作るかということがまさに問われているが、これまでいただいたご意見を踏まえて、これからの課題として精力的にご議論いただいたり、ご提案いただくということで、今回のところは省かせていただいた。

上島委員 基本的にそのような方向で結構だが、統合についての協議がまとめられたという原案は、みんなが同じ思いではないということを確認してほしいと思う。

会長 そういう意見があったということは、現実的に書いてあるし、この方向で議論を進めていくことについては反対がなかったということを確認させていただきたい。